

◆序

第1章 IBDの知っておくべき基礎知識

1) IBDとは～どのような疾患なのか？	10
2) 歴史～いつ報告されたのか？	11
3) 痘学～海外・日本の動向とは？	14
column ◆ Crohn 先生も驚いている！？	12

第2章 IBDの病因・病態

1) IBD 発症に関連する因子～遺伝的素因・環境因子・腸内細菌の重要性	18
2) 免疫異常がもたらす複雑な病態 ～腸管上皮細胞・免疫細胞・サイトカインからIBDをみる	24
column ◆ FMT 治療はIBD にも有効？	21
◆ 細菌の分類と学名についておさらいしよう	22
◆ Tfh 細胞とは	34
◆ pTreg のなかにも種類がある	39
◆ IBD 治療薬によるB 細胞への影響はある？	41

第3章 IBDの診断

1) どのような場合にIBDを疑って診断を進めていくか？	48
2) 診断基準と鑑別～厚生労働省診断基準	52
column ◆ IBD の情報を入手しよう	51

第4章 IBDにおける画像検査

1) 画像検査をどのように活用するか?	64
2) 各検査の特徴	68

第5章 IBDの治療

§ 1 治療の基本

1) 治療概念の変遷	82
2) UC治療の基本アルゴリズム	85
3) CD治療の基本アルゴリズム	88
4) 専門施設へ紹介すべきタイミング	90

§ 2 内科治療と副作用

1) 5-ASA 製剤	92
2) ステロイド	99
3) チオプリン製剤 (免疫調節薬)	103
4) カルシニューリン阻害薬 (免疫抑制薬)	106
5) 血球成分除去療法	110
6) 抗TNF- α 抗体製剤 (生物学的製剤)	113
7) 抗IL-12/23p40抗体製剤 (生物学的製剤)	117
8) インテグリン阻害薬 (生物学的製剤)	120
9) JAK阻害薬 (低分子化合物)	122
10) 抗IL-23p19抗体製剤 (生物学的製剤)	125

§ 3 最新治療

1) GLP-2アナログ (デュクルチド)	129
2) MSC療法	133

§ 4 IBD の外科治療

- 1) UC の外科治療 135
 2) CD の外科治療 139

column	◆ アドヒアラנס向上をめざした投与法における課題 96
	◆ 5-ASA の drug delivery system に少しふれてみよう 98
	◆ 新規ステロイドが使用可能に！ 102
	◆ TPMT 活性ってなに？ 105
	◆ タクロリムスは made in Japan 109
	◆ CAP で治療の選択肢が広がる！ 112
	◆ 抗 TNF- α 抗体製剤をどう選択する？ 115
	◆ S1P 受容体モジュレーター 128
	◆ 脂肪組織由来幹細胞は移植できる 134

第6章 IBD の合併症

- 1) 知つておくべき腸管外症状 144
 2) 関節炎 145
 3) 感染症 148
 4) 血栓症 152
 5) 炎症性発がん 154
 6) 骨粗鬆症, サルコペニア 158
 7) 原発性硬化性胆管炎 (PSC) 161
 8) 皮膚病変 165

column	◆ CMV 感染診断は難しい? 149
	◆ GDH 抗原検査とは? 150
	◆ CD 関連直腸肛門管がん 155
	◆ CD 関連小腸がん 155
	◆ dysplasia の診断基準について、勉強しよう 156

第7章 IBD の special situation

1) 高齢 IBD 患者	172
2) 小児 IBD 患者の治療・管理	178
3) がん患者の IBD 管理	187
4) IBD 患者における妊娠	194
5) IBD と SARS-CoV-2 感染	201
column ◆ 日本 IBD COVID-19 患者登録コホート (J-COSMOS) の最終解析	206

Advanced

これからの IBD 治療に向けて Omics パネルの IBD 病態解明・治療への応用	210
column ◆ AI を用いた粘膜治癒評価	212
◆ 索引	214